

古戦場と池のまち

小豆坂学区

AZUKIZAKA



小豆坂学区
社会教育委員会



未来の小豆坂に伝えたいメッセージ

誰もが住みよいあたたかい学区づくりを 小豆坂小学校 平成27年度 6年男子

デイサービスでお年寄りの方と話をしました。今の平和な時代は、こうした大人の方々の苦労の上にあるんだなと思いました。

僕たちはこの学区がよりよくなることを考え、みんなの気持ちが安らぐ花いっぱい学区にしたいと思い、花壇づくりをしました。僕たちの力

は小さなものですが、学区の皆さんの力を借りてなんとか完成させることができました。できあがった時は本当にうれしかったです。

これからもお年寄りの方を大切にしながら、何ができるのか考え、誰もが住みよいあたたかい学区づくりを進めていきたいです。



デイサービスで交流活動



防災訓練の場で学びを発信



学区のよさを語る町の講師さん

未来を創る宝物

小豆坂小学校 平成27年度 6年女子

「ハートフルプロジェクト だれもが住みよい町づくりをめざして～心のユニバーサルデザイン～」。

これが、私たちが一年間をかけて進めている学習です。防災訓練の場でこのような学習をしていることを発信しました。地域の方たちは真剣に聞いてくださり、私たちの活動を楽しみにしていると言ってくださいました。

二学期からは地域の方とのつながりを深め、活動を進めていきました。皆さんとふれあうたび、地域のこれからのことや地域全体のことをとても考えていっしょのことを知りました。そして、なによりも私たちのことを「小豆坂学区の未来を創る宝物だ」と大切にしてくださると聞き、ハートフルな町づくりに大きな責任を背負っていると感じました。



編集後記

平成28年7月1日現在の学区は、3,978世帯、人口9,883人と統計にあります。小豆坂学区が誕生した1984年（昭和59）には約1,500世帯、人口5,300人余でしたから、この30年あまりで大きく発展してきたことが分かります。その一方、歴史上大きな三つの合戦の地となった当時を偲ばせる風景が、開発の波に飲み込まれてきたのもまた事実です。

本誌の作成に携わり、「歴史と自然」に育まれたこの地を今後も後世に引き継いでいくことが今に生きる私たち学区民の使命であるとあらためて思いました。編集にご協力くださった多くの方々に、心より感謝申し上げます。

〔作成委員会〕 小野田正義/平位壽雄/小田明博/北原次男/加藤洋/後藤敏男/大木和雄/長坂正延/米村進/中西勉

〔表紙写真〕学区運動会に登場する手作り甲冑を身にまとった武者たち

〔参考資料〕 小豆坂学区・学校創立10周年記念誌「小豆坂」/同20周年記念誌/同30周年記念誌「小豆坂」/郷土史「小豆坂」（小豆坂一区内会編）/岡崎市史

小豆坂学区

まちなりたち



1 荒れ地に建立された「小豆坂古戦場」碑



2 建設中の小豆坂小学校（昭和58年）



3 昭和60年開館の小豆坂学区市民ホーム



4 泰平おどりに参加した学区の児童と住民（平成28年）

一五四二年 ■ 天文11	織田軍と今川軍による第一次小豆坂合戦
一五四八年 ■ 天文17	織田軍と今川・松平軍による第二次小豆坂合戦
一五六四年 ■ 永禄7	徳川家康、一向一揆軍と小豆坂で合戦
一九一七年 ■ 大正6	「小豆坂古戦場」碑（↓特集）が愛知県により建立…1
一九三一年 ■ 昭和6	長池周辺に岡崎競馬場開設（1953年廃止）
一九三六年 ■ 昭和11	羽根尋常小学校（現羽根小学校）開校
一九四一年 ■ 昭和16	「小豆坂戦歿者英霊記念碑」（↓特集）建立
一九四七年 ■ 昭和22	岡崎市立南中学校、美川中学校開校
一九五六年 ■ 昭和31	倉田産業が岡崎競馬場跡地に工場建設
一九八〇年 ■ 昭和55	「馬洗池跡」碑（↓特集）建立
一九八四年 ■ 昭和59	岡崎市立小豆坂小学校開校。市内40番目…2
一九八五年 ■ 昭和60	小豆坂学区市民ホーム完成…3
一九八八年 ■ 昭和63	第一回学区敬老会・運動会開催
一九八九年 ■ 平成1	五本松地区に岡崎市勤労文化センター開館
一九八九年 ■ 平成1	小豆坂地区に岡崎地域職業訓練センター開所（現岡崎市産業人材支援センター）
一九九一年 ■ 平成3	小豆坂学区こどもの家完成
一九九三年 ■ 平成5	小豆坂学区・小学校創立10周年記念式典挙行
一九九五年 ■ 平成7	スーパーマーケット「フィールニュース」開店
一九九七年 ■ 平成9	都市計画道路「衣浦岡崎線」の学区内全区間が開通
一九九九年 ■ 平成11	「小豆坂古戦場を偲ぶモニュメント」完成
二〇〇一年 ■ 平成13	小豆坂古戦場跡が岡崎市文化財に指定
二〇〇三年 ■ 平成15	「史跡小豆坂古戦場保存伝承会」が発足
二〇〇七年 ■ 平成19	小豆坂学区・小学校創立20周年記念式典挙行
二〇一三年 ■ 平成25	ショッピングモール「ウイングタウン」開店
二〇一六年 ■ 平成28	岡崎市立翔南中学校開校
	小豆坂学区・小学校創立30周年記念式典挙行

「市制百周年記念岡崎城下家康公夏まつり泰平おどり」に児童、学区民が参加…4

COLUMN

学区のみなさんが語る
なつかしい思い出

現在のウイングタウンに競馬場がありました。知り合いの馬主さんが競馬に連れていってくれるのが私たちのいちばんの楽しみで、馬主さんの馬が1着でゴールすると私たちは大声で叫んでいました。馬主さんが帰りにおいしいものを買ってくれたのがうれしい思い出です。



昭和17年生まれ・女性

大正元年に祖父が友人を誘って安城から不吹に移り住みました。当時は人の住めるような土地ではなく、葦の生い茂る谷間の地。祖父が人を雇い、開墾して住めるようにしたそうです。



昭和8年生まれ・男性

現在の岡崎自動車学校付近にはよくキツネが出没したため、祠を建てて稲荷様を祀るようになりました。



昭和8年生まれ・女性



戦後間もない昭和23年の小豆坂学区周辺（郷土史「小豆坂」より）

DATA



□人	□	9,883人
	男性	4,971人
	女性	4,912人
□世帯数		3,978世帯
□面積		1.56km ²

[2016年7月1日現在]

「小豆坂」という地名

古戦場で知られ、学区名でもある小豆坂という地名の由来には、いくつかの説があります。

- 一 交通路が交わり「物が集まる地」の説
- 二 坂が長いので「足つき坂」の説
- 三 小豆のような小石が敷き詰められた坂が多かったことから「小豆の坂」の説
- 四 雑木が多かったことから「厚木坂」の説
- 五 小豆が多く自生していたとの説：などなど。

小豆坂学区のおいたち

小豆坂の地名は、天文17年3月19日の「第二次小豆坂合戦」（↓特集）において、西郷ほか3名の戦功に対し今川義元が出した感状の中に「今月十九日小豆坂横無比之軍忠」と出たのが最初です。

かつて小豆坂学区は戸崎村、羽根村、生田村にまたがっていました。市町村制が施行された1889年（明治22）、戸崎村と羽根村は柱

針崎、若松の各村と合併し、額田郡岡崎村になっています。また生田村は1878年（明治11）に近隣の村と合併し和合村に、さらに明治22年にも合併して美合村になっています。岡崎村、美合村とも1928年（昭和3）に岡崎市に合併しました。学区一帯には山林が広がり長らく人家がありませんでした。人が住むようになったのは昭和10年代に長池の周辺で区画整理事業が行われて以降です。戦後、学区一帯の丘陵地が宅地として開かれると人口が爆発的に増加し、1984年（昭和59）に小豆坂小学校が新設されました。

小豆坂

まちものがたりマップ

その昔、20年の間に3回の合戦の舞台となった小豆坂の地。開発が進み住宅地となりましたが、自然あふれる地域であることに変わりはありません。坂の多いまち、小豆坂ウォークをどうぞ。



E 元気な声が緑の中に響く小豆坂小学校



F 新一年生の交通教室がおこなわれる岡崎自動車学校



G 技術者を目指す若者を育てる岡崎工業高校



H 水鳥が憩う羽根大池



I 買い物客でにぎわうウイングタウン



COLUMN 羽根大池に白鳥が！

宅地が多い小豆坂学区ですが、学区内に点在するため池を中心に意外ほど豊かな自然が残っています。小学校に近いガン池は、自然観察学習で子どもたちもよく足を運ぶ場所。また、羽根大池では冬になると白鳥が居付き卵をあたためることもあり、地域で見守っています。



D 自然がいっぱいのガン池



C 落ち着いた雰囲気がたどる光ヶ丘女子高校



B 研修や講習など働く人びとの活動の場岡崎市労働文化センター



A 環境保全検査等を行う岡崎市総合検査センター



戦前のスタンド風景



憩いの場として親しまれる現在の長池

COLUMN 学区にあった岡崎競馬場

「ウイングタウン」の北にある長池の周囲には1931年（昭和6）から1953年（昭和28）まで岡崎競馬場があり、多くの人でにぎわいました。かつての第4コーナー付近には岡崎乗馬会の練習場「岡崎市羽根乗馬場」があり、今も馬の姿が見られます。

小豆坂古戦場めぐり

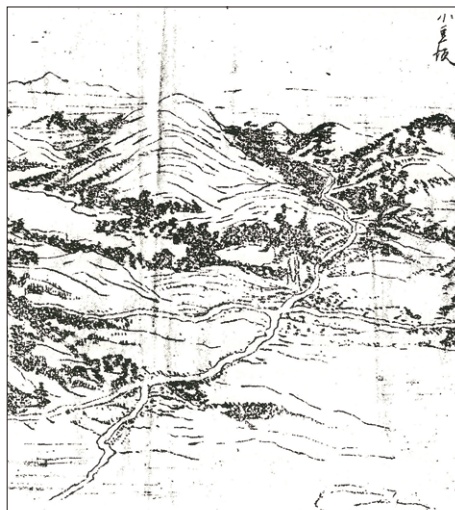
第二次小豆坂合戦概略図



「小豆坂の合戦」とは？

羽根町から美合町にかけて、なだらかな丘陵地となっている小豆坂学区では、戦国時代に天下統一のさきがけともいえる歴史上重要な三度の合戦がありました。これらをまとめて「小豆坂の合戦」と呼んでいます。第一次合戦は1542年（天文11）。尾張の織田信秀（信長の父）と、駿河の今川義元がここ小豆坂にて激突し、織田軍の勝利に終わったとされています。両軍は6年後の1548年（天文17）に再び小豆坂であいまえ、第二次の合戦となりました。このとき、織田軍四千、今川軍一万の大軍が火花を散らしました。

小豆坂を舞台にした戦いはさらに続き、1564年（永禄7）、勢力を増した「一向一揆」軍と徳川家康軍との戦となりました。これら大きな三つの合戦を経て、世は天下統一へと進んでいったのでした。



石川貫河堂（1780～1859）の描いた小豆坂の絵図（岡崎市史より転載）

合戦の歴史を今に伝える

史跡小豆坂古戦場保存伝承会

小豆坂小学校の郷土研究



手作りの甲冑をまとった保存会のみなさん

歴史上有名な三度の合戦があった小豆坂の地も、近年都市開発が進み大きく変貌。史跡の位置さえあいまいになりつつあります。「伝承会」は、学区民全員にふるさとの歴史への理解を深めてもらう目的で、2001年（平成13）に設立されました。戦没者慰霊祭や歴史講演会などを毎年実施しています。



みんなで作ったマップだよ！

小豆坂小学校では開校以来、学区の歴史や文化、自然を学ぶ授業に力を入れてきました。児童たちが本を調べ、実際に学区を歩いて「手作り学区マップ」を毎年作成し、学校の廊下に掲示しています。小豆坂合戦の歴史はもちろん、学区に数多いため池やそこで見られる豊かな自然も紹介しています。



3 小豆坂古戦場を偲ぶモニュメント
徳川、今川、織田の家紋があしらわれている。1997年（平成9）建立で新聞にも紹介された



4 小豆坂戦没者英霊記念碑
篤志家により1941年（昭和16）に建立。現在はフィールニュースの敷地内にある



- 記念碑
- 現存の池
- 今はない池

わが町が合戦の舞台だったのじゃ！

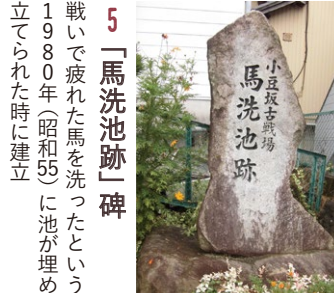


- 1「血洗池跡」碑
- 2「小豆坂跡古戦場」碑
- 槍立松の碑

第一次合戦で活躍した織田勢の武将が休息時に槍を立てた松があった



1「血洗池跡」碑
合戦後、身体に付いた血をここで洗い流したところ、池が血の色に染まったという。1993年（平成5）移設



5「馬洗池跡」碑
戦いで疲れた馬を洗ったという。1980年（昭和55）に池が埋め立てられた時に建立

2「小豆坂古戦場」碑
P2の写真1と同じもの。近隣の別の場所から1987年（昭和62）に移設された



学区一帯に荒れ地が広がっていたんだよ



このあたり一帯の古い地名。激戦で野原が血に染まったことが由来とか...

岡崎環状線は尾根に道を作りました

へえ、昔はもっとため池があったんだね

